

連携

栗原市立栗原中央病院

広報誌

編集：広報委員会、地域医療連携室

平成23年11月発行

第40号

目次

- p 1 糖尿病地域連携パスとは？
- p 2 新任医師紹介
栗原市被災地支援プロジェクト医療ワーキンググループに係る支援
- p 3 院内部署紹介 薬剤科
栗原地域実務者ネットワーク研修会
- p 4 学会・研修会・論文発表
七夕コンサート
市民講演会のお知らせ / 編集後記

〒987-2205

宮城県栗原市築館宮野中央三丁目1番地1

栗原市立栗原中央病院（代表）

TEL：0228-21-5330

FAX：0228-21-5350

URL：http://www.kam.or.jp/

地域医療連携室（直通）

TEL：0228-21-5335

FAX：0228-21-5336



糖尿病地域連携パスとは？

増加する糖尿病患者さんに対するきめ細かな診療は限られた数の糖尿病専門医のみでは不可能であり、糖尿病を専門とされないかかりつけ医の先生方との協力が不可欠です。糖尿病地域連携パスは、かかりつけ医の先生方と専門病院との間の紹介・逆紹介を介した双方向性の診療システムであり、どの科のご専門の先生でもご参加いただけます。栗原中央病院内科では、ご紹介いただいた患者さんの病態と合併症を精査し適切な診療計画を立てて、また、教育入院、食事指導にも重点を置きます。その後、かかりつけ医の先生のもとにお戻りいただきますので、かかりつけ医の先生方におかれましては、その後の診察・検査および投薬を定期的におこなっていただきます。その後、当科への受診は3～6カ月に一回の割合で、必要に応じ食事指導・教育入院などの教育指導を予定し、薬物療法については適宜、かかりつけ医へアドバイスさせていただきたいと考えます。合併症の評価も、年一回程度行い、かかりつけ医へ情報提供していきます。循環型の診療システムを目指します。

糖尿病患者さんのフォローアップは生涯にわたって必要であり、長期になれば多くの患者さん

栗原市立栗原中央病院内科医長 鈴木慎二

でコントロールの悪化や糖尿病合併症およびほかの疾患の発生が起きえます。血糖コントロール・合併症の悪化などがありましたら栗原中央病院に再度ご紹介をお願いいたします。このようなバリエーションが発生した場合でも連携型診療を継続することは、地域の糖尿病医療レベルの向上と地域完結型の糖尿病診療ネットワークの充実につながる大きな要因と考えます。

糖尿病地域連携パスという地域共通診療ツールを介して、かかりつけ医と専門医療機関との二人主治医制度による医療を展開することで患者さんの安心・信頼感を醸成し、地域レベルの均てん化と質の向上に繋がります。よりよい地域医療の確立のために、糖尿病地域連携パスへのご協力をお願い申し上げます。



栄養士による糖尿病教室の指導



新任医師紹介

よろしくお願いたします！



赤井 健次郎 内科部長（あかいけんじろう）

専門：循環器内科一般
 循環器内科の急性期医療を通して、地域医療に貢献
 したいと思います。
 今後ともよろしくお願申し上げます。



栗原市被災地支援プロジェクト医療ワーキンググループに係る支援

東日本大震災により大きな被災を受けた県内自治体への支援を目的に、被災地支援プロジェクト本部が栗原市に設置され、栗原市病院事業では、避難所への医療等支援を行うための病院事業管理者の諮問機関として、栗原市被災地支援プロジェクト医療ワーキンググループを設置しました。

避難所の医療支援体制については、栗原市医師会、歯科医師会、薬剤師会、県立循環器呼吸器病センターなどの関係機関と市民生活部、栗原市病院事業が一体となった取組みを行い、その活動の一つとして、当院の精神科医療チームが、全避難所を巡回しました。

精神科医療チームが実施しましたアンケートについて紹介します。

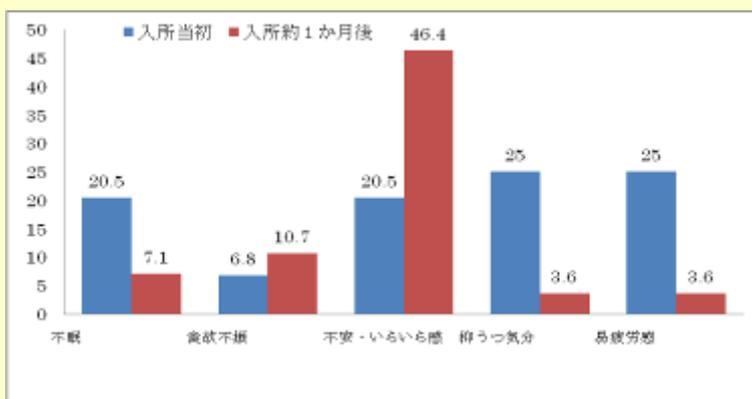
『南三陸町の栗原市への避難者の避難入所当初と入所約1か月後の自覚的精神症状の比較』

栗原市立栗原中央病院 精神科医師 三由幸治
 精神保健福祉士 長峯深雪

1 方法

入所当初の4月8、9、11、12、13日に44名に、入所約1か月後の4月25、27日、5月9、11日に28名にアンケート調査を実施した。

2 結果



3 考察

不眠、抑うつ気分、易疲労感の3項目については避難所で落ち着いた環境の提供を受けたことと、避難者によっては、精神科治療を受けて精神症状の自覚者が減ったと考えられる。不安・いらいら感は入所後の相談でも多くみられた、「子供の教育、食事」、「他の家族との被災状況の違いからくる不公平感」、「いつ仮設住宅に入居できるか」等、現実的な問題に向き合うことが多くなり増加したと考えられる。入所1か月後以降のアンケートは実施できなかったが、現実的な問題が次第に解決に向かっていくため、不安・いらいら感もその後は減少していくと推測される。

部署紹介

薬 剤 科

薬剤科長 若生健司



薬剤科では、病院の基本方針に従い、地域に求められる良質な医療機能を支えるための薬物治療支援業務をおこなっています。

総勢 6 名の薬剤師は、医薬品の供給・品質管理、調剤業務、注射薬無菌調製業務(抗がん剤・中心静脈栄養)、薬剤管理指導業務に加え、感染制御チーム、糖尿病療養チーム、栄養サポートチーム等の一員として、他部門との連携を重視した臨床業務に積極的に取り組んでいます。また、医薬品使用に関連した医療安全対策への貢献が、私どもの大切な使命であるとの認識のもとに、後発医薬品の普及に伴って複雑化する持参薬管理への対応や、看護部門の煩雑な与薬補助業務への寄与も果たすべく、日々前向きな活動を進めています。

このたびの未曾有の大災害では、非常事態に臨む医療人として薬剤師が何を成すべきか、混乱しつつも懸命に思慮をめぐらせていた最中に、お薬手帳が投薬に役立ったという話や、不足していた治療薬の代替選定、支援物資(医薬品)の仕分けなどで薬剤師が活躍したというレポートが津波の被災地から届けられました。これらのレポートは正に、常日頃からの地域連携推進を育む精神や活動が、非常時には大いに役立つことを伝えるものでした。私どもはこの経験をふまえ、シームレスな地域連携医療の実現への取り組みも視野に入れて、地域に根差した病院薬剤業務を今後も模索して行きたいと考えています。

当科の取り組みに皆様からのご指導、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

栗原地域実務者ネットワーク研修会

「在宅療養の場で行うフォーレカテテル管理」

平成 23 年 7 月 23 日に、地域医療連携室では栗原市の中核病院として、地域の医療・保健・福祉に携わる職員の皆様と共に学ぶことを目的に、『栗原地域実務者ネットワーク研修会』を初めて開催しました。今回は地域の訪問看護ステーションの看護師を中心に、「在宅療養の場で行うフォーレカテテル管理」と題し、安全管理をテーマとした研修会を開催しました。このテーマは、地域の訪問看護ステーションから提案があり実現しました。訪問看護師ばかりではなく院内看護師にとってもあまり学ぶ機会のないテーマでもあり、院内外の看護師 39 名の方々に参加していただきました。

「基本と安全管理について」は、当院泌尿器科部長小野寺孝夫先生、「感染管理について」は、感染管理認定看護師小形聖香手術室看護師長、

「実践について」は、泌尿器科外来宮東秋子看護師がシミュレーターを用いて実技の技術研修を担当してくださいました。

アンケート結果では、「解剖の説明から実際まで実によく分かりました」「挿入時 3 本の指で支えて挿入するということを今回学ぶことが出来た」病院看護師からは、「在宅訪問現場の生の声が聞いて参考になりました」「とても具体的でわかりやすかった。」という感想をいただきました。

今後も地域のいろいろな職種の実務者を対象とした研修を継続して行っていきたいと考えております。(地域医療連携室長 渡邊和子)



学会・研修会・論文発表

☆改訂版 専門のお医者さんが語るQ&A『膵臓の病気』 2011.9

発行 保健同人社・・・小泉 勝

☆第42回日本膵臓学会 2011.7.29 ～青森県 弘前市～

『シンポジウム2. 再発性膵炎の治療』特別発言・・・小泉 勝

☆第9回日本ヘルニア学会学術集会 2011.8.1～2 ～福岡県～

『当院におけるJHS分類の妥当性と黄色い外鼠径ヘルニアの検討』

・・・名久井雅樹 谷山裕亮 大橋裕介 中鉢誠司 高橋宏和 内田 孝

☆第30回日本医用画像工学会大会 2011.8.5～6 ～栃木県～

『異なる傾斜板ファントムを用いた3次元MR撮像のスライスプロファイル計測法の比較』

・・・○吉田 礼^{1,2} 小倉隆英¹ 田村元¹ 森一生¹ 引地健生² 町田好男¹

東北大学大学院医学系研究科保健学専攻¹ 栗原中央病院²

☆第59回日本心臓病学会 2011.9.24 ～兵庫県 神戸市～

『東日本大地震により甚大な被害を被った病院について、問題・対策及び再建計画の検討』

・・・赤井 健次郎, 出町 順 石巻市立病院 循環器科

☆糖尿病座談会 2011.8.24 ～福島県 福島市～

『過疎地における震災時の糖尿病治療を考える—私の経験から』・・・小泉 勝

☆仙台市医師会 2011.7 No.563 P.7 学術部勉強会

『労働者の生活習慣と健康指導—アルコールの知識と膵臓の病気—』・・・栗原市病院事業管理者 小泉 勝



七夕コンサート

平成23年8月1日(水)午後6時30分から、ホスピタルモールにおいて『七夕コンサート』が開催されました。くりくり保育園の子ども達の「たなばたさま」の合唱や「八木節」の遊戯にはじまり、職員によるコーラス隊が「川の流れるように」「上を向いて歩こう」等を合唱、最後は看護師長会を中心に盆踊りを踊りました。手作りの七夕飾りや想いが込められた短冊が会場を彩り、夏を感じさせる楽しい七夕コンサートになりました。

社会福祉士 大杉実穂



がん患者家族相談支援事業 市民講演会開催のお知らせ

がん患者家族相談支援事業として、市民講演会を開催します。

どなたでも参加できますので、お気軽にご参加ください。

○日時 平成23年11月7日(月)

午後3時から4時30分

○場所 栗原市立栗原中央病院 2階講義室

○内容 講演 「がん患者さんの家族看護」

講師 宮城県立がんセンター

がん看護専門看護師 松田芳美先生

○問合せ 地域医療連携室 0228-21-5335



編集後記

震災から半年がたち、2011年も後半に入りました。連携室の大きな窓から見える風景も秋を感じるこの頃です。先日、美味しい秋を探しに、亶理町へはらこ飯を食べに行ってきました。食欲の秋、芸術の秋、今年はどんな風に過ごしていますか？ TS

